症例で身につく

がん疼痛治療薬 contents



●序			重樹,	下山直	人
●力	ラー	アトラス			10
序	章	がん疼痛治療をはじめる前に			
	1.	がんの痛みについて考える	北島甸	対光	16
第 1	章	がん疼痛について			
§ 1	がん	∪疼痛の特徴			
	1.	がん患者の痛みを捉える橋本龍也,	齊藤洋	育	18
§2	がん	u疼痛の分類			
	1.	がんによる痛み (がん疼痛)	細川豊	是史 :	20
		合併症およびがん治療に伴う痛み			25
	3.	突出痛と持続痛 ····································	R. Tay	lor :	30
§3	がん	∪疼痛の評価法			
		問診によるがん疼痛の鑑別診断小杉寿文			34
	2.	痛みの強さの評価	佐藤英	连俊 :	37
第二	2章	がん疼痛治療の基本			
	1.	WHO方式がん疼痛治療法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	下山直	三人 :	39
	2.	WHO 方式 3 段階除痛 ラダー	下山直	三人 .	42

	3.	鎮痛薬の作用機序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	下山	直人	45
	4.	非オピオイドの使い分け	阿部	泰之	48
	5.	弱オピオイドの開始時期	生駒	美穂	52
	6.	弱オピオイドと強オピオイドの使い分け	生駒	美穂	54
	7.	強オピオイドの開始時期	生駒	美穂	56
	8.	強オピオイドの使い分け	生駒	美穂	58
	9.	突出痛治療薬 (レスキュー)山口重樹, Donald	R. Ta	aylor	61
	10.	ROO製剤の特徴と注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	坂下	美彦	65
	11.	オピオイド鎮痛薬使用時の心得 (麻薬鎮痛薬の誤解を解く)			
		·····································	R. Ta	aylor	68
笙 :	章	鎮痛薬の種類			
<i>A C</i>		娱佣未ずが主衆			
§ 1	非ス	トピオイド鎮痛薬			
	1.	アセトアミノフェン	山口	重樹	71
	2.	COX-2 非選択性の NSAIDs ·······神山直也,	粟屋	敏雄	77
	3.	COX-2選択性の高い阻害薬	·川奈	緒美	81
§ 2	弱乙	トピオイド鎮痛薬			
	1.	コデイン	佐伯	茂	86
	2.	トラマドール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	山口	重樹	92
§ 3	強ス	トピオイド鎮痛薬			
		フェンタニル注射剤坂本明之,	川股	知之	96
		フェンタニル即効製剤 石井浩二, 北條美能留,			99
		フェンタニル徐放製剤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			104
		モルヒネ注射剤			113
		モルヒネ速放製剤			117
	6.	モルヒネ徐放製剤			126
	7.	オキシコドン注射剤			142
		オキシコドン速放製剤			145
	٥.	1 1 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	11.371		0

9. オキシコドン徐放製剤	148
10. メサドン下山直人,久保田敬乃,下山恵美	151
11. タペンタドール ·······················山口重樹,Donald R. Taylor	154
§ 4 鎮痛補助薬	
1. 抗うつ薬①住谷昌彦, 山田芳嗣	157
2. 抗うつ薬②下山直人,久保田敬乃,下山恵美	162
3. 抗痙攣薬 住谷昌彦,山田芳嗣	165
4. 抗不整脈薬 ···········佐野智美	170
5. NMDA 受容体拮抗薬····································	176
6. ステロイド佐野智美	184
7. 漢方薬···········恵紙英昭	193
§ 5 その他	
1. ゾレドロン酸水和物	199
2. 塩化ストロンチウム (⁸⁹ Sr) ····································	203
3. 抗コリン薬稲田深雪	207
4. オクトレオチド稲田深雪	210
第4章 鎮痛薬の副作用対策	
§ 1 NSAIDsの副作用対策	
1. NSAIDs による副作用の発生機序と対策······三木健司	213
§ 2 オピオイドの副作用対策	
1. 便秘,嘔気嘔吐,眠気下山直人,久保田敬乃,下山恵美	217
2. せん妄三浦智史,木下寛也	221
§ 3 ゾレドロン酸水和物の副作用対策	
1. 顎骨壊死 ·······海老原 充,小西哲仁	224
§ 4 トラマドールの副作用対策	
1. セロトニン症候群山口重樹	227

第5章 症例で学ぶ鎮痛薬の選び方・使い方

§ 1 侵害受容性疼痛(内臓痛)の治療	
1. 頭頸部がんの痛み住本和歌子,石井純一,余宮きのみ	230
2. 食道がんの痛み中西京子	234
3. 胃がんの痛み	238
4. 大腸がんの痛み余宮きのみ	242
5. 肝がんの痛み	246
6. 胆嚢がんの痛み	249
7. 膵がんの痛み中西京子	252
8. 子宮がんの痛み 駒澤伸泰, 吉野 葵, 池垣淳一	256
9. 卵巣がんの痛み 駒澤伸泰, 吉野 葵, 池垣淳一	259
10. 乳がんの痛み 駒澤伸泰, 吉野 葵, 池垣淳一	262
11. 腎がんの痛み 駒澤伸泰、浅湫美穂、池垣淳一	266
12. 膀胱がんの痛み 駒澤伸泰、浅湫美穂、池垣淳一	270
13. 前立腺がんの痛み 駒澤伸泰、吉野 葵、池垣淳一	273
14. 肺がんの痛み	276
15. 肺がんの痛み (肺がんの治療が奏効した症例)田口奈津子	280
16. 胸膜播種(胸壁腫瘍)の痛み	284
17. 悪性リンパ腫の痛み ·······今井洋介	288
18. 多発性骨髄腫の痛み 今井洋介	294
19. 成人白血病の痛み	300
20. 小児白血病の痛み	306
21. 小児固形腫瘍の痛み大園秀一	31
§ 2 侵害受容性疼痛(骨転移等)の治療	
1. 骨肉腫の痛み坂下美彦	316
2. 上腕骨転移の痛み 坂下美彦	319
3. 椎体転移の痛み 坂下美彦	322

4. 全身骨転移の痛み…… 坂下美彦 325

§ 3 神紀	経障害性疼痛の治療			
1.	原発性悪性脳腫瘍に伴う痛み	·渡辺邦	彦	328
2.	転移性脳腫瘍に伴う痛み	·渡辺邦	彦	331
3.	脊髄・脊椎腫瘍に伴う痛み	·渡辺邦	彦	334
4.	脊髄圧迫症状に伴う痛み	10比登	実	336
5.	腕神経叢浸潤に伴う痛み	·窪田靖	志	342
6.	坐骨神経浸潤による痛み	·窪田靖	志	346
7.	四肢浮腫による神経絞扼による痛み	·窪田靖	志	350
8.	腸腰筋症候群による痛み久保田敬乃,	下山直	人	354
9.	メサドンによる治療	·関根龍	<u> </u>	359
§ 4 混合	合性疼痛の治療			
1.	混合性疼痛とは	·飯嶋哲	也	365
2.	椎体転移および脊髄神経圧迫に伴う痛み	·飯嶋哲	也	367
3.	肋骨転移および肋間神経浸潤に伴う痛み	·飯嶋哲	也	371
4.	仙骨転移および仙骨神経浸潤に伴う痛み	·飯嶋哲	也	374
§ 5 筋膜	堂性疼痛の治療			
1.	肺がん頸椎転移に伴う筋膜性疼痛吉澤明孝,	吉澤孝	之	378
2.	長期臥床による筋膜性疼痛 吉澤明孝,	吉澤孝	之	383
§ 6 抗た	がん治療に伴う痛みの治療			
1.	化学療法後の痛み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	三宅	智	389
2.	手術後の痛み	·三宅	智	393
3.	放射線照射後の痛み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·三宅	智	397
§ 7 呼吸	B 困難			
1.	呼吸困難への対応	·松島秀	和	401
第6章	症例で学ぶ突出痛への対応			
1.	体動時の突出痛	有賀悦	子	407

	2.	消化管蠕動による突出痛・・・・・・・・赤司雅子	有賀悦子	412
	3.	予想できない突出痛山田佐世子,	有賀悦子	416
	4.	薬の切れ目による突出痛・・・・・・・・・・赤司雅子、	有賀悦子	420
	5.	フェンタニル即効製剤による治療	通口比登実	424
第一	章	Patient-Controlled Analgesiaと持	続皮下 流	主入
	1.	Patient-Controlled Analgesia	…粕田晴之	437
	2.	持続皮下注入	…粕田晴之	441
		\$1. -1 11 11 1. 1 5 5 -1 -1		
第8	草	治療困難ながん疼痛		
	1.	オピオイド抵抗性のがん疼痛の判断中島信久	佐竹宣明	446
	2.	オピオイドスイッチング中島信久	佐竹宣明	449
	3.	オピオイドの硬膜外持続注入(硬膜外鎮痛法)	…小杉寿文	455
	4.	オピオイドのくも膜下持続注入(くも膜下鎮痛法)	…小杉寿文	459
	5.	鎮痛補助薬の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	佐竹宣明	464
	6.	非薬物療法:神経ブロック	…小杉寿文	469
	7.	非薬物療法:放射線治療	…江島泰生	473
• Co	olur	nn 麻薬性鎮痛薬の依存・乱用鈴木 勉,	芝﨑真裕	478
● 略	語一	覧		480
<u>+</u>	=			400
• 索	5			482

※本書内の用語は「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2014版」(日本緩和医療学会/編)に対応しています

※症例等は治療当時のガイドラインに基づき文献を掲載しています